

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■GLAMA GLAMA西濃ブロック研修会開催

1月18日に大垣市西部研修センターにて、女性農業経営アドバイザー西濃ブロック研修会がコロナ禍により今年度初めて開催された。岐阜市の榊芋慶さんを講師に味噌玉づくりを行った。豆味噌に乾物や香味野菜、ゴマ油を少々加えて練り、1玉20gの団子を作った。出来上がった団子に、あられや麩などをトッピングして仕上げた。完成した味噌玉はチョコレートのような仕上がりとなったが、バタフライピーの花の粉を使った味噌玉は、青い味噌汁となり、歓声が上がった。参加者にとって充実した研修会となった。

農業普及課では、今後もGLAMAの活動充実に向けた支援を行っていく。



【研修会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■かき 柿環境に配慮した資材の実証ほの設置

揖斐地域果樹産地協議会では、R4年から5年までみどりの食料システム戦略緊急対策（グリーンな栽培体系への転換サポート）事業を活用し、環境に配慮した資材による土壌の物理性の改善、肥料の削減効果等の栽培実証に取り組んでいる。

12月27日に大野町のかき生産者のほ場で、バイオ炭や鶏糞の施用効果を実証する試験区を設置した。

農業普及課では、関係機関とともに各区の柿の生育状況等調査を行い資材施用効果について検討を進めていく。



【実証ほ設置の様子】

■かき 「早秋」「太秋」剪定講習会の開催

1月7日に大野町かき振興会会員を対象に「早秋」、「太秋」の剪定講習会が開催された。

「早秋」と「太秋」は主要な早生～中生品種で、合わせて11.8haが栽培されており、産地内では面積拡大が期待されている。

研修会に約40名の生産者が参加し、農業革新支援専門員が実際に剪定作業を行いながら、ポイント等を説明した。また、農業普及課からは、資料を基にR4柿生産に関する生育状況や剪定における注意点等を情報提供した。



【剪定講習会の様子】

■茶 ASIA GAPにおけるシャドー審査

1月10日に（農）桂茶生産組合において、ASIA GAPにおけるシャドー審査が行われた。

シャドー審査とは、組合事務局による内部審査にあたり、組合員の農場管理や労働衛生などの状況について聞き取り、確認を行うことで、その審査にあたっては農業普及課とJAいび川からも書類管理の指導、助言を行った。

今後もシャドー審査を重ねていくことで、よりよいGAPの運用を行い、さらなる産地の信頼を目指していく。



【シャドー審査の様子】

■いちご 岐阜県いちご共進会地方審査を実施

岐阜県いちご共進会は、優良生産者の表彰により県内生産者の栽培技術改善、品質向上、経営の合理化を図ることを目的に、地方審査を毎年開催している。

揖斐管内の地方審査は1月23日に行われ、各組合から推薦された7戸の生産者は場を揖斐農林事務所長を審査員長として、関係機関からなる地方審査員が生育状況や管理技術などの項目について、審査を行った。

今後、県審査、実物審査や出荷・販売審査を経て、6月頃に最終的な審査結果が発表される。農業普及課では、優良生産者の技術が地域に波及し個々の経営発展や産地振興につながるよう関係機関と連携しながら支援を行っていく。



【審査の様子】

地域資源を活かした農村づくり

■徳山なんば 生産販売検討会

1月24日に道の駅ふじはしで、徳山なんばの生産販売検討会を実施し、今年度の生産実績と加工品の販売状況等について、関係機関を交えて協議し、次年度産に向けて検討を行った。

検討会では、多く収量を上げた栽培方法を情報共有するとともに、新商品や販路についてアイデアを出し合い、次年度の取り組みの役割分担を行った。引き続き生産者、関係機関が連携して徳山なんばを利用した商品アイテムを増やしながら町内外にPRを行い新たなブランドづくりを進めていく。



【検討会の様子】

■わさび 実生栽培研究

揖斐川町の沢わさび生産において苗を安定的に確保することを目的に10月から苗の栽培の研究を開始した。播種時期を10月上旬と下旬の2回に分け、発芽や生育状況の差を確認するとともに、管理場所、管理方法を変えながら沢への植え付け時期の3月末までハウス内で管理する。

初回の播種から約2ヶ月を経過した現在は、条件差等によるバラつきもあるものの、順調に生育している苗もあり、今後の生育変化を注視する。



【生育の様子】